

報道関係者各位

平成 23 年 8 月 2 日
東京マラソン財団



東京マラソン 2012 チャリティ“つなぐ” チャリティランナー申込み状況について

一般財団法人東京マラソン財団（東京都江東区、理事長：帖佐寛章）が実施する、『東京マラソン 2012 チャリティ“つなぐ”』において、7 月 15 日から寄付金とチャリティランナーを募集しております。
現在のチャリティランナーの、申込み状況についてお知らせいたします。

チャリティランナー申込人数:337 人
8 月 2 日(火)11:00 現在（申込み開始より 19 日目）定員 3,000 人(先着)

チャリティランナーは、東京マラソン公式ウェブサイト(<http://www.tokyo42195.org/>) 及び、ゼビオ株式会社ウェブサイト(<http://www1.xebio.co.jp/>)にて、最長 2011 年 11 月 30 日(水)17 時まで受付しています。
(先着順。定員になり次第終了)

東京マラソン財団理事長 帖佐寛章コメント

「一般ランナーの募集開始を前に、約 2 週間でこれだけ多くの方にチャリティランナーとしてご賛同いただけたことは、予想を上回る結果だと思っています。これは、東京マラソンが日本でチャリティの要素もあるマラソンイベントであると認識され、日本にチャリティの文化が根付いてきていることを意味すると思っています。皆様のご協力に感謝するとともに、引き続き、申込みをお待ちしています。」

【参考資料】

チャリティランナー応募者のコメント抜粋

■神奈川県 50 代男性

「私の実家も中越地震で崩壊してしまいました。その際も、世界中の温かい支援で立ち直ることができました。その御恩と感謝を絶対に忘れません。」

■埼玉県 20 代女性

「震災後、自分に何ができるのだろうと考えた時に7年間続けていた陸上・走ることで力になれるかもしれない。と思いました。そして、私の大切な人達・家族、みんなにずっと笑顔でいてほしい。そんな思いを込めて 42.195km を完走したい。」

■東京都 30 代女性

「私は看護師で、夫と共に命の現場の最前線に立っております。そんな私ですが、今回は走ることで難病と闘っている子どもたちやご家族に勇気を与えたいと思ってます。」

■東京都 50 代男性

「前回、チャリティランナーの想いを聞き、また、チャリティが大会直後の東日本大震災に寄付されたことを聞き、チャリティランナーとして参加することを決意。3月から走った距離分のマラソン貯金をしてきました。各種支援に微力ながら役立てればと思います。」

■東京都 30 代男性

「当選して走る事を楽しみにしていた東京マラソン2011。その一週間前に母が急逝し、マラソンの出場は辞退。その後間もなくしての東日本大震災。命を失う悲しみに再び見舞われ。けれども力強く生きていく被災地の方々に感動。母ならば確実に寄付していただろうと思い、チャリティに参加します。」

■兵庫県 50 代女性

「伴走者になりたいという夢を持っていました。しかし、走歴2年で乳ガンに罹り手術の失敗で後遺症を持つようになり、伴走どころか自分の完走で精一杯という状態になりました。今回チャリティという形で障害者アスリートの応援を出来ることを知り、走り出した頃の夢を叶えるべく応募することになりました。」

■福井県 30 代男性

「2年前、待望の長女がこの世に生まれました。しかし、数日後心臓病にかかっていることがわかりました。根治手術を受け、入院中に娘は1歳の誕生日を迎え、看護師の方々が手作りの誕生日プレゼントを用意してくれました。多くの方に親切にいただき、少しでも恩返しがしたく、参加します。」

■福島県 50 代男性

「震災により、それまでの価値観が一変しました。医師として、被災地の診療にボランティアとして参加し、震災復興や医療に貢献したい気持ちが強まりました。同時に、50 歳を超えた自分の限界に挑んでみたい気持ちもあり、参加を希望します。」

■東京都 70 代女性

「45 歳でボストンで初マラソンを経験してから運動が苦手なほうだった私が、マラソンにのめり込みました。ずっとあちこち走り続けてきました。来年 73 歳になるので、そろそろフルマラソンは走れなくなります。最後に東京マラソンを楽しく走ってその上誰かのお役にたてれば嬉しいと思い申し込みました。」

■東京都 60 代男性

「生まれ育った美しい東北地方が、力強く再建してほしい。宮城の活気ある漁港や、福島の美しい自然が蘇ってほしい。被災地の方々が少しでも元気を出せるように今年で62歳！フルマラソン完走目指してがんばります！」

■北海道 40 代男性

「以前から、わずかな額ですが、いくつかの支援先へ寄付を続けてきました。大好きなマラソンを通じての寄付ができることを嬉しく思います。2歳になる子の父親として、難病と闘う子どもたちへの支援を選択しました。」

■東京都 80 代男性

「これまで 50 年以上、医療活動を通じて地域に貢献してきた。地域においても家族の絆はもっとも大切なことのひとつであり、この機会を通じて協力できればと考えた。」

■千葉県 20 代男性

「ただマラソンに参加するわけではないので、何かパワーが出る走りが出来そうです！がんばります。」

■沖縄県 60 代男性

「マスコミ等の報道を通し、障害者アスリートの育成について支援をしたいと常日頃から考えていたところ、今回このような機会を知り協力したいと考えている。」